

医療支援部会における検討状況

検討項目及び開催実績

1 当部会における検討項目

認知症の人の、認知症と身体症状双方の症状に応じた医療支援体制について

2 開催実績

(第3回) 平成19年 12月4日(火) 17時～19時

(第4回) 平成20年 2月5日(火) 17時～19時

具体的な検討状況

MCI～軽度における考え方(要旨)

		受診まで	診断・治療
基本的考え方		<p>①一次的な相談体制や受診を促す方法は</p> <p>適切な治療・ケアを受けたり、今後の生活設計を自分で決めたりするためには、早期受診が不可欠</p> <p>しかし、どこに相談・受診・紹介すればよいのかは、患者・家族のみならず、関係機関の間でも必ずしも明らかになっていない。</p> <p>そこで、相談体制や受診を促す方法について関係機関の役割を明確にするとともに、認知症専門医療機関実態調査の結果の活用策を検討し、相談先・受診先の情報を共有することが必要。</p> <p>情報の共有にあたっては、患者・家族へは、インターネットなどを活用し、広く情報を共有し簡単にアクセスできるようにする、相談機関等関係者へは、連携推進のために必要な情報も加えるなど、それぞれに適した情報が届くように配慮する必要がある。</p>	<p>②より迅速に的確な診断へアクセスするには</p> <p>高齢者の増加や早期受診の意義について啓発が進むことにより受診が増えると、今後、全てを専門医・専門医療機関が担うことは困難</p> <p>そこで、アルツハイマー型、脳血管性認知症の典型例の診断、状態が安定している認知症の治療はかかりつけ医が担うことが望ましい。</p> <p>ただし、かかりつけ医の対応力の向上や専門医による助言が得られる仕組み等サポート体制の構築が必要</p> <p>③本人・家族の負担感の軽減と医療資源の有効活用の双方を実現するには</p> <p>軽度の患者が増大すると、専門医・専門医療機関が必要な場面で機能しなくなる恐れがある。また、遠方の医療機関に通院することは、患者・家族にとっても負担が大きい。</p> <p>そこで、症状が安定した場合は必ずかかりつけ医に戻すことを基本とする。</p> <p>併せて、かかりつけ医のバックアップ体制の構築が必要</p> <p>例・安定時の専門医への定期通院(年1～2回)や患者情報のやりとりによる情報の共有・連携の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 患者情報のやりとりでは、簡潔なフォーマットによるものとし、以下の内容を記載する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px; margin: 5px 0;"> <p>[かかりつけ医 専門医] 紹介目的、生活上の困難、身体疾患の治療状況 その他状態の変化</p> <p>[専門医 かかりつけ医] 認知症の診断・治療内容、告知の有無・内容</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> かかりつけ医、専門医・専門医療機関、相談機関等関係者による症例検討会の実施 等
関係者・関係機関の役割分担	本人・家族	早期受診の意義について正しく理解する 疑いが生じたらかかりつけ医へ相談・受診する	専門医・専門医療機関へはかかりつけ医へ相談した上で受診することが望ましい
	相談機関等関係者 (コーディネーター)	かかりつけ医への相談・受診を促す かかりつけ医・サポート医との連携を進める	情報の共有 定期的な研修会・症例検討会等の実施
	かかりつけ医	認知症についての受診を促す(自ら診断する場合も含む) 本人を伴わない家族から相談があった場合には、家族に対し、生活環境の整備のポイント等を助言	地域の専門医・専門医療機関の把握と連携の実践 定期的な研修会・症例検討会等の実施 患者の定期通院等による情報の共有
	認知症専門医 ・専門医療機関	本人を伴わない家族から相談があった場合には、家族に対し、かかりつけ医への相談を促す	上記かかりつけ医の役割に加え、 患者の急変時等の対応
	一般病院 (身体疾患)	高齢者の患者の認知症の疑いを見逃さない 疑いがある場合は専門医・専門医療機関へつなぐ	高齢者の患者の認知症の疑いを見逃さない 疑いがある場合は専門医・専門医療機関へつなぐ
	行政 (都・区市町村)	早期診断の意義・かかりつけ医が受診促進に果たす役割について普及啓発を行う	かかりつけ医の認知症対応力の一層の向上策の実施 地域の医療資源(かかりつけ医・サポート医・専門医療機関)の把握・情報提供

19年度の成果

医療支援部会での検討成果や、連携・影響のあった事業

- ◆ MCI～軽度の段階における考え方を整理(再掲)
- ◆ 東京都認知症専門医療機関実態調査
 - ・調査の内容や分析の視点について検討
 - ・調査結果(速報値)を踏まえた議論
- ◆ 認知症サポート医フォローアップ研修の事業化(20年度～)

今後の予定

- ◆ 中等度の段階について検討を開始【参考資料4】
- ◆ 平成20年度は5回程度開催し、高度・終末期の順に検討
- ◆ 医療支援部会での検討結果については、20年度末に報告書として取りまとめ